

10月17日（木）第1講義室において、春学期の報告会が行われました。

当日は、学生22名、石山幼稚園教員2名、石山小学校教員1名、助言者（退職女性校長会から派遣）2名、大学教員2名、計29名が参加しました。

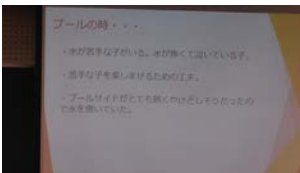
以下に、報告内容の概略を記します。

## 幼稚園グループ

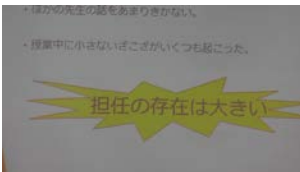


プールでの活動の前に、曲に合わせて踊る時間が設けられていました。それは、水遊びを始める前の準備体操であることを知り、「楽しい活動の中に、体験させたい動きを組み込む工夫」が、幼稚園には、そこかしこにあると気づきました。また、プールを苦手とする子が、他の子からの誘いによる形で水遊びを始めたことや、遊びが、一人から仲間へと広がっていく様子を見て、子どもたちは、元来、他者と関わることを欲し、そこで経験から学んでいると知りました。

## 1年生グループ



水泳の時間には、プールサイドで嫌になり泣き出す子や、水に足をつけようとしない子に対し、先生がおんぶをしたり、一緒に遊んだりしながら、水泳への抵抗感が軽減されるよう配慮されていました。このように、耐性の低い1年生の指導では、苦手なことを楽しませるための活動・環境の工夫が不可欠であると思いました。

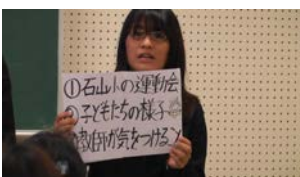


担任不在の日は、子どもたちに落ち着きがなかったり、小さなトラブルが起こったりしました。このことから、環境変化に弱いことと、担任の存在が大きいことを再認識しました。

## 2年生グループ



運動会では、隊形変化が難しかったことから、具体的な目標物や指示が必要であると気づきました。全体に指示をする時に、先生は、よい姿勢の子を褒めることで、砂遊びやおしゃべりが始まらないようにされていました。「叱る」よりも「褒める」ことで、指導することの大切さを学びました。



生活科の学習成果を模造紙にまとめる時間には、一人の子から、その子の表現について感想を求められました。そこで、いくつかの不備を指摘したら、その子は活気を失ったようでした。「何を伝え、何を伝えないか」を考えた「適切な助言」ができる教師をめざしたいと反省しました。

## 3年生グループ



子ども同士のトラブルが起こった時に、先生は、頭ごなしに叱るのではなく、「なぜ叱るのか、何がダメなのか」を穏やかに話しておられました。「子どもを一人の人間として正対し、説明することで子どもは変わるのだ。」と思いました。



学習に集中しづらい子には、机間支援時に肩を叩き、励ますことで課題に向かわせることができたのは喜びでした。学級では、「〇〇係」ではなく、「〇〇会社」と子どもたちにネーミングさせることで、活動意欲が喚起されていたようでした。活動を勢いづかせるちょっとしたセンスが、教師には必要であると感じました。

#### 4年生グループ



算数科では、学習についていけない子がいました。そこで、これまでの学習内容を一緒に復習しながら、「どこでつまづいているのか」を知り、それを意識して支援をするよう心がけました。その子は、算数に前向きに取り組めているので、今後も支えていきたいです。

担任の先生は、子ども同士が意見を述べあう「子ども主体の授業」を展開されていて参考になりました。そして、それを可能にするのは、仲間の発言を尊重し合う雰囲気や、学習と遊びのけじめ「学習規律」であると学びました。

#### 5年生グループ



算数科では、「答えを教えて！」と、子どもたちは要求してきました。しかし、思考力をつけることが大切と思い、子どもと一緒に考えるようにしてきました。正解を求める「子ども目線」を認めつつも、「大人の目線」を持ちながら支援することが肝要だと気づきました。

会話が成立しにくい子に対して、「目を見て話す」ように努めた結果、その子から近寄ってきて、話しかけるようになりました。「その子と関わりたい」と願い、小さなことでも継続的に取り組めば、信頼関係を構築できると知りました。

学校が励行しているあいさつは、よい人間関係を生み出し、相手を大切に作る気持ちにもつながると思います。気持ちのよいあいさつが交わされる学級では、助け合いや思いやりの心が育まれるのではないのでしょうか。

#### なかよし学級グループ



子どもが暴力をふるっている時に、毅然とした態度で注意することができませんでした。それは、「子どもに嫌われたくない」自分がいたからです。しかし、「人間として、許されない」ことは、相手が子どもであろうと、しっかりと言わなければ、その子のためにはなりません。今後は、自分の軸を作り、指導がぶれない大人になろうと決めました。

なかよし学級では、異学年の子どもたちが、個に応じた様々な課題に取り組んでいます。先生一人が彼らに対応している様子を見て、大変な仕事であると驚きましたが、それは、一人ひとりの状態をよく把握しておられる証拠であるとも思いました。

言葉が上手く出ず、手を出してしまう子がいました。行動だけを見て、乱暴な子どもととらえるのではなく、その子の気持ちや思い、背景を視野に入れながら、接していくことが大切だと学びました。

学生報告の後、石山幼稚園、石山小学校、滋賀県退職女性校長会の先生方から指導助言をいただき、春学期の報告会は終了しました。



スクールサポーターの皆さん、ご苦労様でした。

お忙しい中、ご参会頂きました先生方、ありがとうございます。